

第4章 緊急時の対応

〈関係資料〉



もくじ

OAED の取り扱いについて.....	63
---------------------	----

1. AEDの取り扱いについて

AEDとは、自動体外式除細動器のことを言います。

A : Automated (自動化された)、E : External (体外式の)、D : Defibrillator (除細動器) です。

心停止には、電気ショックの適応となる「心室細動」と呼ばれる心臓が細かくふるえることによって、血液を送り出せなくなる不整脈によるものと、適応でないものがあります。

心臓の状態をAEDが判断して、自動的に電気ショックが必要かどうかを教えてください。

電気ショックをすることで、心室細動を止めて正しい心臓のリズムに戻します。

(1) AEDの使い方

*AEDは音声や画像で指示を出してくれるので、その指示に従って行動します。

スイッチON

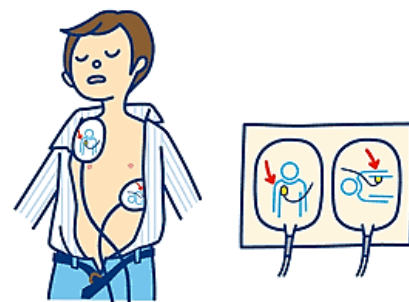
1. AEDが到着したらすぐに電源を入れます。機種によっては、AEDのフタをあけると自動で電源が入るものもあります。



パッドを貼る

2. 倒れている人の衣服を取り除き胸をはだけます。AEDのケースに入っている電極パッドの1枚を胸の右上に、もう1枚を胸の左下の素肌に直接貼り付けます。

電極パッドを貼る間もできるだけ胸骨圧迫を続けます。



安全確認をして除細動ボタンを ON

3. 「離れてください。心電図の解析中です」との音声メッセージとともに、AED が自動的に解析を始めます。

4. 電気ショックが必要な場合は「ショックが必要です」と音声でその必要性を教えてください。周囲の人が倒れている人に触れていないことを確認して、ショックボタンを押します。



胸骨圧迫再開

5. 電気ショックの後は直ちに胸骨圧迫を再開します。AED の指示に従い、約 2 分おきに心肺蘇生と AED の手順を繰り返します。

注意：AED のパッドは救急隊が到着するまで貼ったままにしておいてください。
また、AED の電源も切らないでください。

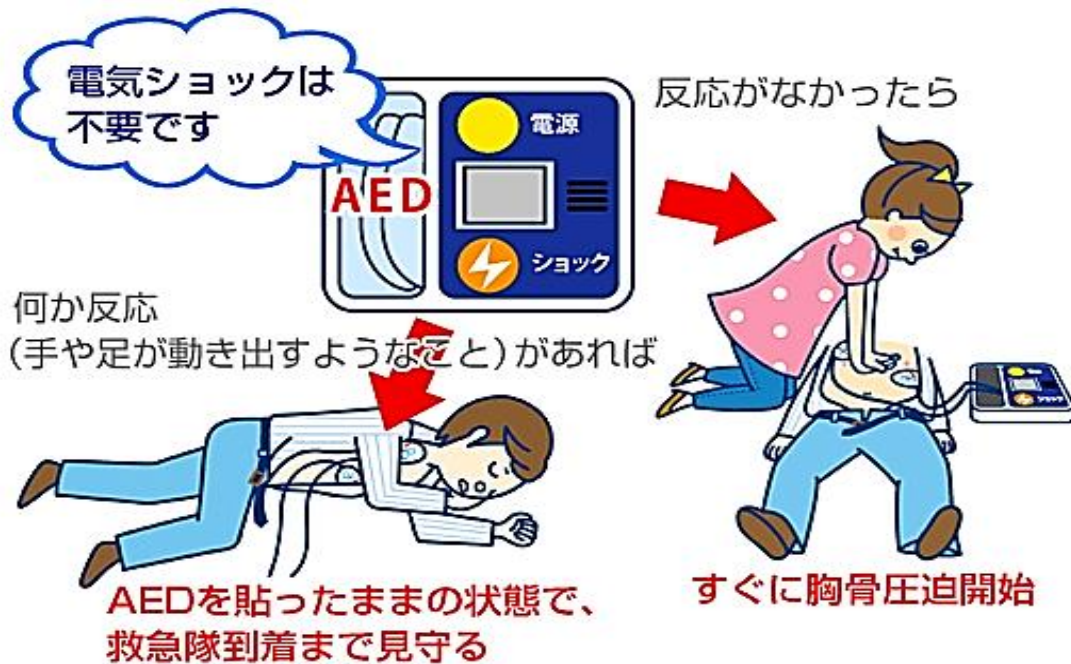


大事なこと！もし、AED が“電気ショックは不要です”って言ったら??

心停止には、電気ショックの適応となる「心室細動」と呼ばれる心臓のけいれん（細かく ふるえている状態）によるものと、適応でないものがあります。AED はこの電気ショックの適応の有無を自動的に判断してくれます。電気ショックが必要でない場合、「電気ショックは不要です」と指示をします。

「電気ショックは不要です」＝「心臓が動いている！回復した！」ではありません。

AEDが「電気ショックは不要です」と指示してきた時、倒れている人に反応がなかったら、必ず胸骨圧迫を行ってください。



特殊な状況下でのAEDの使用

①倒れている人の胸が濡れている時

電気が体の表面の水を伝わり流れてしまうので、AEDの効果が不十分になります。乾いた布、タオルなどで胸を拭いてからAEDのパッドを貼ってください。



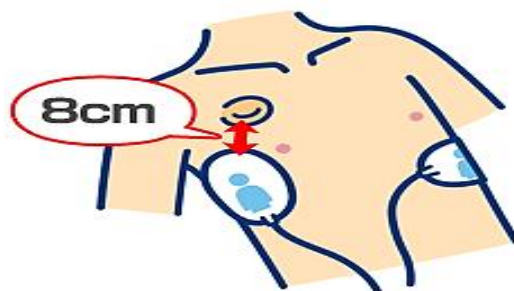
②貼り薬がはってある場合

貼り薬やシップ薬が、AEDのパッドを貼る場所にある場合は、まずそれらをはがしてください。もし、薬が残っていたら薬剤をふき取り、パッドを貼ってください。貼り薬の上からパッドを貼ると電気ショックの効果が減少してしまったり、やけどを起こす可能性があります。



③医療器具が埋め込まれている場合

皮膚の下に心臓ペースメーカーや除細動器が埋め込まれていると、胸に硬い「こぶ」のような出っ張りが見られます。パッドを貼る場所にこれがある場合、8 cm以上離して貼りつけてください。



④胸毛が多い場合

胸毛が多いと、パッドが肌に密着せずに AED の効果が減少したり、やけどの原因となります。できるだけしっかりと密着するように貼り付けます。予備のパッドがあれば、最初のパッドを素早く胸毛ごととはがしてから、新しいパッドを貼り直すという方法もあります。